（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援センター（第一放課後等デイサービスぽこぽこ）

公表日 令和8年12月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	3	・パーテーションの利用で部屋を分けたり移動式の小さなパーテーションで個人のプライベートを守っている。 ・パーテーションで仕切りをし、活用している。 ・個別の支援、対応が行えるスペースを要す場合にも、状況に応じて広さを工夫している。	・運動遊びなどの際に、狭いと感じることがある。 ・全体が見渡せるといい。 ・運動遊びなど、もう少し広さがあると良い。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	・児童対応が難しい時には応援を頼んで工夫している。	・一対一の対応が必要なこどもも多く、日によっては少ないと感じることがある。 ・時には足りないと感じることがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・使いにくい構造がある場合には、スタッフ間相談して工夫している。	・構造として（ハード面）として適切でない場合がある。 ・飛び出しがあった場合を考慮すると、ハード面（玄関）を検討した方が良いのではないか。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・常にそうじを心がけている。 ・常に工夫している。	・網戸が破れている。サッシの隙間から雨水、砂が入る。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・場合に合わせて適切に個別の部屋で過ごせるように工夫している。 ・個別の活動や過ごす場所など、パーテーションを使いながらよく工夫している。 ・状況に応じて都度対応をしている。	・こどもの状況やスタッフの人数の関係で使用できないことも多い。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		・振り返りの時間が持てない時には、少しでも時間を見つけて行っている。 ・頻度についても検討している。	・振り返りの時間を毎日持つことが難しい。 ・職員間の時間の共有が難しいことがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・意見交換は意識するように職員間で声を掛け合っている。	・業務改善に至るまで時間がかかることがある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	・外部評価は行っていないが、業務改善に努めている。 ・夏休みには第三者委員と児童との顔合わせをしている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・一人でも多くのスタッフに受講してもらう体制を心掛けている。研修に出れない場合は情報共有等引き継ぎをしている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			・ホームページにて公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・アセスメントは適切に行われ、保護者のニーズを取り入れて計画している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・職員間で共通理解が図れるように意見交換を意識し、工夫している。	。行動観察が主で、職員間で児童の評価に相違が生じることもある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	7		・職員ひとりひとりが計画、目標に沿った支援を意識している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		・インフォーマルではあるが、行動観察から課題、目標を確認し合っている。	・フォーマルなアセスメントツールを使用し難い。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・児童の様子に合わせて柔軟に活動内容を検討、立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・特性を理解し、同じ素材、同じルールでも雰囲気や方法、目標設定を変更したりしながら工夫している。 ・長期休み中は外部講師による交流機会を設けている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	6	1	・特に気づいた点においては話し合っている。 ・安全面や体調管理に関わることなど、迅速に周知、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・気づいた点、重要な点を記録し、要点をまとめるよう心掛けている。 ・支援の検証については、話し合いにて改善につなげている。	・記録を見返す時間を設けにくい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・定期的にモニタリングを行っている。	・適切な見直しにまでなっていないかもしれないと感じることもある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・小さな選択からコツコツしてもらっている。 ・選択肢の数の配慮や、子どもの発信ができる工夫をしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・必要に応じて情報共有を行うよう心掛けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・保護者を通して、または学校と情報交換を行い、連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	・移行支援会議等で情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	・移行支援会議等で情報共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	3		・センターとの連携不足あり。また、研修機会を設ける時間がない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	・交流機会の目的を検討している。 ・子どもにとって、最善の形での社会性の広がりができるよう配慮している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1		・自立支援協議会への参加の時間を設けにくい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・生活の流れに配慮し、支援の途切れがないように配慮している。保護者から都度、伺うようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		・家族のニードに合わせ、家族参加ができる機会を検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・必要に応じて面談日を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	・長期休み中に、家族向けの見学会を行った。見学後、参加者で交流はじめ話し合いの場を提供。	・コロナ以降できなくなってきていたので、今後は保護者同士の交流機会を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・ホームページにて発行している。 ・個別連絡ツールを活用し、発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・個人情報の取り扱い、漏洩には職員間で話し合い、留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	・プール、体育館など貸し出している。 ・プール開放、体育館利用等。演奏会（チェロ、太鼓）	・地域に開かれた事業運営については検討を要す。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・マニュアルの確認を徹底している。 ・マニュアルについては、玄関に提示している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	・定期的に避難訓練を行っている。	・法人職員、事業所職員としての防災意識を高める必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・体調面、緊急時の対応に十分配慮している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・常に記録しみんなで共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・虐待防止の為の研修、虐待防止の指針を設け、虐待防止に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	・子どもの安全確保のための身体拘束、行動制限について、計画書に記載している。	